

分科会開催報告書

報告日	平成 27年 10月 8日	報告者	田中徳明																																													
分科会名	浮雲俳句会	開催テーマ	第93回浮雲俳句会例会																																													
開催日時	平成27年 9月 27日 午前 9:30~11:50	開催場所	金沢地区センター小会議室																																													
参加人数	“わ”の会会員 男 14名	女 5名	合計 19名 欠席者 0名																																													
<p>実施内容</p> <p>第93回例会の出句は兼題 ①初島 ②地理（中秋） と当季雑詠2句の計4句。 句会は、大川一馬会員による添削披露及び渡邊一紀会員による選句の披講の後、北野主宰から、天・地・人各賞及び特選9句並びに佳作7句の発表と、それぞれの句についての論評があった。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">天賞句</td> <td style="width: 60%;">秋草を皿に盛りをり呉須の筆</td> <td style="width: 25%;">和 女</td> </tr> <tr> <td>地賞句</td> <td>初島の磯の飛沫や根釣人</td> <td>好 童</td> </tr> <tr> <td>人賞句</td> <td>赤とんぼ止まれこの指母の指</td> <td>祥 代</td> </tr> <tr> <td>特選句</td> <td>初島の軒にずらりと鯨の竿</td> <td>勇 平</td> </tr> <tr> <td></td> <td>初島の空逝く雁に茜射す</td> <td>一 紀</td> </tr> <tr> <td></td> <td>稲妻に半跏思惟像指光る</td> <td>一 馬</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一声の瀬音に透る黄鶺鴒</td> <td>十 九</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ベランダを独り占めして秋簾</td> <td>一 幸</td> </tr> <tr> <td></td> <td>しがみつくコアラの如き榎檐かな</td> <td>とも女</td> </tr> <tr> <td></td> <td>曼珠沙華赤き紅ひく女将かな</td> <td>重 九</td> </tr> <tr> <td></td> <td>障子貼る見様見真似の餓鬼大将</td> <td>国 眼</td> </tr> <tr> <td></td> <td>舟溜り月光浴びて日の出待つ</td> <td>一 祝</td> </tr> </table> <p>主宰の指導 ①句は一人称を主題として詠むべきである。 ②兼題への取り組みは「外観」ではなく、内側から迫るのがよい。</p> <p>会員選高点句</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">8点句</td> <td style="width: 60%;">一湾の良夜さへぎるものはなく</td> <td style="width: 25%;">一 清</td> </tr> <tr> <td>7点句</td> <td>尾瀬の朝花野の影は燧岳</td> <td>三 旦</td> </tr> <tr> <td>7点句</td> <td>人語より鳥語を聞きつ大花野</td> <td>一 清</td> </tr> </table> <p>次回の予定 平成27年10月25日（日）午後0時～ 於「ののはな館」 第16回金沢区民俳句大会（吟行）への参加</p> <p>その他 ○主宰より 平成28年5月は 浮雲100回記念大会となる、何か記念事業を。 ○会報54号の「浮雲抄録」ほかのミスの処置についての報告あり。 ○浮雲「十年の歩み」の編集作業状況・今後のスケジュールの報告あり。 ○10月区民大会吟行会への参加・協力について</p>				天賞句	秋草を皿に盛りをり呉須の筆	和 女	地賞句	初島の磯の飛沫や根釣人	好 童	人賞句	赤とんぼ止まれこの指母の指	祥 代	特選句	初島の軒にずらりと鯨の竿	勇 平		初島の空逝く雁に茜射す	一 紀		稲妻に半跏思惟像指光る	一 馬		一声の瀬音に透る黄鶺鴒	十 九		ベランダを独り占めして秋簾	一 幸		しがみつくコアラの如き榎檐かな	とも女		曼珠沙華赤き紅ひく女将かな	重 九		障子貼る見様見真似の餓鬼大将	国 眼		舟溜り月光浴びて日の出待つ	一 祝	8点句	一湾の良夜さへぎるものはなく	一 清	7点句	尾瀬の朝花野の影は燧岳	三 旦	7点句	人語より鳥語を聞きつ大花野	一 清
天賞句	秋草を皿に盛りをり呉須の筆	和 女																																														
地賞句	初島の磯の飛沫や根釣人	好 童																																														
人賞句	赤とんぼ止まれこの指母の指	祥 代																																														
特選句	初島の軒にずらりと鯨の竿	勇 平																																														
	初島の空逝く雁に茜射す	一 紀																																														
	稲妻に半跏思惟像指光る	一 馬																																														
	一声の瀬音に透る黄鶺鴒	十 九																																														
	ベランダを独り占めして秋簾	一 幸																																														
	しがみつくコアラの如き榎檐かな	とも女																																														
	曼珠沙華赤き紅ひく女将かな	重 九																																														
	障子貼る見様見真似の餓鬼大将	国 眼																																														
	舟溜り月光浴びて日の出待つ	一 祝																																														
8点句	一湾の良夜さへぎるものはなく	一 清																																														
7点句	尾瀬の朝花野の影は燧岳	三 旦																																														
7点句	人語より鳥語を聞きつ大花野	一 清																																														